



# 花とみどり

Vol. 66  
2013.2.28



「菊月」



「日の丸」



「岩根紋」



「白角倉」



「唐弁天」



「赤腰蓑」



「沖の浪」



当センターでは、462品種、1158本のツバキ・サザンカ類を展示しています。



## 「埼玉県花と緑の振興センター」となって10周年を迎えるにあたり

当センターは、平成15年4月に前身である「埼玉県植物振興センター」から改組して、平成25年度でちょうど10年になります。また、昭和28年、川口市安行に「埼玉県植物見本園」として開設されてから60年に当たり、還暦を迎える記念すべき年となります。

試験研究との連携を強化させることとして、平成15年度に農林総合研究センター園芸研究所深谷試験地（昭和49年度に「埼玉県花植木センター」として発足）に当センターから緑化造園担当を4人駐在させるととも

に、川口市の本所にも、さくらの研究に携わる研究員2人が駐在し、併せて総勢18人で花植木の生産指導や県民向けの講座など、幅広く充実した内容で業務に取り組んできました。

しかしながら、近年の厳しい財政状況などを反映し、現在は安行で8人体制で頑張っています。今後とも、植木生産者・関係者の活動を積極的に支援するとともに県民の皆さんに親しまれる施設となるよう、引き続き、取り組んでいきたいと思いを。

## 生産者紹介

### ●第21回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール 日本花き普及センター会長賞

株式会社吉沢園芸 吉澤 明弘 氏

植木・枝物の産地川口市で、シクラメン、ビオラ、ペチュニアなどの鉢物と花だん苗の大規模生産に取り組み、ヒートアイランド等夏の高温対策としてヒートポンプ導入や施設の嵩上げなど栽培環境整備、機械・機器による省力化や動線を考慮した労働環境の改善、先進地からの技術導入による高品質化、立地条件を活かした直売経営などが高く評価され受賞となりました。



吉澤明弘・Sherry夫妻

### ■経営・技術の特徴

平成15年大学卒業後、海外派遣研修でアメリカワシントン州のモンガード・フローラル社でポインセチア、ゴールドクレスト等の大規模鉢物経営を学び、帰国後シクラメン生産を受け継ぎました。

平成19年にはシクラメンの更なる品質向上を目指して、栃木県内のイッセイ花園で1年間研修し、ここで学んだ技術を自己の栽培に取り入れました。その結果、埼玉県シク

ラメン共進会では平成20年以降の5年間で知事賞を含め4回金賞を受賞するなど確実に品質を向上させています。

消費地が近い立地条件を活かし、鉢物・花だん苗の市場出荷と同時にシクラメンの庭先販売や直売所出荷などの販売体制を強化し、さらにインターネットでも販売を始め、3年目の今年ようやく手応えが掴めてきたそうです。

## 🌱 植木需要の推移と海外市場を視野に入れた植木生産 🌱

21世紀に入り景気は低迷を続け、国内経済は低成長となっており、公共緑化樹や大型庭園樹を中心に植木需要は減少しています。一方消費者のガーデニング嗜好はさらに進んでいます。国内のこのような傾向は、今後もしばらく続くと考えられます。

しかしながら海外に目を向けてみますと、1970年代から始まったEU諸国への盆栽輸出は、金融危機の煽りを受けた不況下ではありますが、日本産盆栽の評価が高く、相変わらず根強い人気があります。また中国では経済の成長に伴い、植木需要は高まっています。特に「イヌマキ」等マキの仲間は、縁起の良い「羅漢松」と呼ばれ富裕層に人気の樹種です。

また、平成24年4月から10月までオランダ王国フェンロー市で開催された国際園芸博覧会（フロリアード2012）には、埼玉県からも川口市が、市内の若手農業

者が中心となって出展しました。安行の植木や資材等を使用し、日ごろの腕をふるい、日本庭園を製作し、展示したところ、会場での評価も高く、好評を博しました。

日本の中でも埼玉県の植木生産者の技術水準は高く、世界に誇れるもので、市場競争の中で大きな武器となります。今後とも国内だけではなく、海外も見据え、情勢を的確に捉える目と世界に通用する腕を磨き、埼玉植木を発展させましょう。



フロリアード2012  
日本庭園での  
デモンストレーション

埼玉県が誕生して百年になる昭和46年に「県の花」が制定されることになり、フクジュソウなど埼玉県に縁のある五種類の花が候補にあがり、その中からサクラソウが選ばれました。また、埼玉県さいたま市桜区の「田島ヶ原サクラソウ自生地」は国の特別天然記念物に指定されています。

### ❁ サクラソウとは

サクラソウ（桜草、学名*Primula sieboldii* プリムラ シーボルディー）はサクラソウ科サクラソウ属の多年草です。天保時代の栽培書「桜草作伝法」には、「桜草と云いならわし候草花、桜花に花形似たればこそ、名付しことなるべし。」と花の名前の由来が述べられています。日本から朝鮮半島、中国東北部にかけて分布していますが、国内では四国と沖縄には分布していません。

### ❁ 生育

3月上旬に地中で休眠していた根茎から芽が出て葉が開いてきます。4月の初めになるとつぼみが見え始め、4月下旬には花盛りとなります。花が終わると葉の基部に新しい根茎ができて始め新しい根が伸びてきます。7月頃になると葉が枯れ始め、翌春まで休眠状態となります。寒さには強いが暑さと乾燥に弱いため、春先には日がよく当たり、夏には背の高い草や落葉樹の日陰となる場所が生育に適しています。

### ❁ 栽培の歴史

サクラソウの栽培は江戸時代になって始まりました。18世紀の初めには荒川添いの原野から花の変ったものが採取され、さまざまな色変わりの品種が生まれました。さらに、タネをまいて苗を育てることが始まり、より一層新しい品種が増え、江戸時代の終わりには200品種をこえました。

明治維新になるとサクラソウを栽培していた武士階級が没落したため、多くの品種が散逸してしまいました。社会が落ち着くと保存されていた品種の収集や新たな品種改良が行われ、明治40年には311品種を数えるまでになりました。第二次世界大戦後の混乱をのりこえて多くの品種が現代まで伝えられ、全国の愛好家に栽培されています。



「小桜源氏」



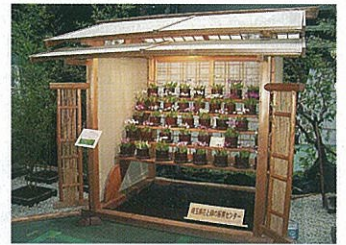
「雪月花」

### ❁ 桜草花壇

現在つかわれている「花壇」という言葉は、英語の flower bed の訳語が定着したものです。本来の「花壇」は、ひな壇がひな人形を立体的に飾るために使われるように、花

を立体的に陳列するためのものをさします。

桜草花壇の場合は、四方に柱を立て、屋根を設け、三方をよしすや障子で囲み、5段又は6段の棚を設け、両脇に袖垣を添えます。



桜草花壇

### ❁ 品種保存

サクラソウの品種は江戸時代から受け継がれた貴重な文化遺産です。愛好家により栽培保存されていますが、散逸する恐れがないとはいえません。また、野生のサクラソウの保護活動が行われていますが、生育環境の変化などにより自生地の中には絶えてしまうものが出てくる恐れがあります。このため、サクラソウの品種の収集・保存が、旧埼玉県花植木センターで精力的に行われ始め、平成15年4月からは私共の花と緑の振興センターの業務となりました。

当センターでは、園芸種329品種と野生種59系統を合わせて388の品種及び系統を保存しています。これは国内有数の保有数です。野生種の原産地は北海道から九州まで及んでいて学術的にも大変貴重なものです。

### ❁ 展示

サクラソウの品種は鉢植えにして保存していますが、より多くの県民の方々に親しんでいただくため、当センター内の新展示園にも植え付けています。



新展示園のサクラソウ

### ❁ サクラソウまつり

平成24年4月28日から30日までの3日間サクラソウまつりを開催しました。

サクラソウの品種展示を行うとともに、講演会を実施しました。

また、より多くの人達にサクラソウに親しんでいただくため、280品種の苗を販売しました。

# センターで行っている研修

当センターでは、緑化推進のため3種類の研修を実施しています

## 造園業者や植木生産農家の技術向上のための研修

現在、造園業や植木生産を営んでいる方に向けた技術向上の研修の他、造園の技能検定取得に向けた専門研修を8回実施しています。



造園技術の実習



木の種類を覚える授業

## 街の緑サポーター育成のための研修

園芸のボランティアをめざす方、または活動中の方のスキルアップを支援する目的で開催します。

初級では植物を育て管理するための基礎的な講義を全5回行い、上級では知識・技術を習得するための実習を中心とした全25回を行います。



初級の講義



上級の庭木剪定実習

## 緑の利用や増殖の普及促進のための県民向け研修

一般の方を対象に、植物の植栽や花壇の花利用などの研修を、緑化講座として10回実施しています。



花の栽培と利用実習



クリスマスリースづくり

## 春と秋の安行花植木まつり

花と緑の振興センターでは、地元で春と秋に行われる安行花植木祭りに参加しています。今年の春の祭りでは530名、秋の祭りには780名の参加をいただき、おおいに盛り上がりました。

4月14日、15日に行われた春の祭りでは、オープンガーデンを中心として地域をめぐる安行トレッキング、自然を生かした工作教室、苗木配布を行いました。



工作教室

また、10月6日～8日まで行われた秋の祭りでは、安行植木の里めぐりとオープンガーデントレッキング、園内の草木や実を使った工作教室、ドングリクッキング、竹であそぼうの催しを行いました。

オープンガーデンや安行の旧跡を巡るトレッキングでは、普段通り過ぎるだけで、なかなか味わえない安行のガイドをしています。名所旧跡として、興禅院、赤山城址だけでなく、知る人ぞ知る猿貝塚などもご案内。自

然景観ではふるさとの森を中心として春はイチリンソウ、秋は彼岸花やモミジなど、緑あふれる安行の地を堪能していただきました。

工作教室では、園内でとれた松ぼっくりやドングリ、種などを使って、いろいろな工作をしてもらいました。

ドングリクッキングでは、特にアクの少ないマテバシイを使ってクッキーを作り、来場者に試食していただきました。実際に試食してみると好評で、自宅で試された方もいたのではないのでしょうか。竹であそぼうでは、水でっぼう、竹馬、竹とんぼも用意し、実際に竹とんぼづくりに



ドングリクッキング

挑戦される方もいらっしゃいました。

これらの花植木祭りでは、花と緑の振興センターで研修を終えられた多くのボランティアの方々が活躍してくれています。これからも、街おこしの一環としてこのような活動を実施し、花植木や自然への興味を一層深めてもらい、県内花植木産業の振興につなげてまいります。

Information

花とみどり

平成25年2月28日発行

発行所/埼玉県花と緑の振興センター  
 発行人/埼玉県花と緑の振興センター 所長 佐野誠一  
 〒334-0059 埼玉県川口市安行1015  
 TEL : 048-295-1806 FAX : 048-290-1012  
 HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k32/>  
 E-mail [h951806@pref.saitama.lg.jp](mailto:h951806@pref.saitama.lg.jp)

